

ARDECO NEWS

10号

特集 街と調和する建物デザイン
大正デコ 舟和本店

アルデコ再発見！

景観条例とアルデコ 個性的な街づくりに、柔軟に対応する

pickup



街中にあるモールディングをWatch!

モール形状から見える、汚れとの関係

2018年5月28日発行

装飾建材

アルデコ

街と調和する建物デザイン “舟和本店”

景観条例と改装工事

舟和本店の改装工事をコーディネートされた株式会社アリガの藤丸 正裕 様と設計を担当した奥原 弘倫 様、お二人にお話を伺いました。



本店リニューアルをコーディネート
株式会社アリガ 藤丸 正裕 様

古い建物は立て直しか、改装か… リニューアルデザインは原点回帰

私が相談をお受けした当時は、舟和本店の建て替えて話が進んでいました。しかし、建て替えとなると店を閉める期間が2～3年に及び、閉店している間の売上は有りません。長期間の閉店ももったいないと思いました。また、土地柄地盤改良が必要で、さらに建て替え後は、今までと同じ建築面積を確保できる保証もありません。

そこで、耐震検査をして問題が無ければ、改修工事が良いと提案しました。改修であれば閉店は1年程度で済み、建築コストも抑えられます。検査結果、耐震に大きな問題はなく、柱・壁等の少しの補強で済むことがわかりました。これなら1年位でリニューアルが可能になります。実際閉店は、丁度1年で済みました。

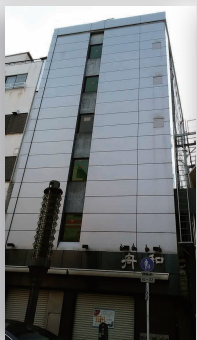
建物デザインについては、オーナー様のビジョンは明確でした。現代風のデザインにしたくない。歴史ある「舟和」の原点回帰をすることです。昔の舟和の写真から、かつての店舗「みつ豆ホール」に目をつけ、これをコンセプトにすることはすぐに決まりました。

「みつ豆ホール」は当時としてはハイカラだったと思います。すぐく目立ったでしょうね。

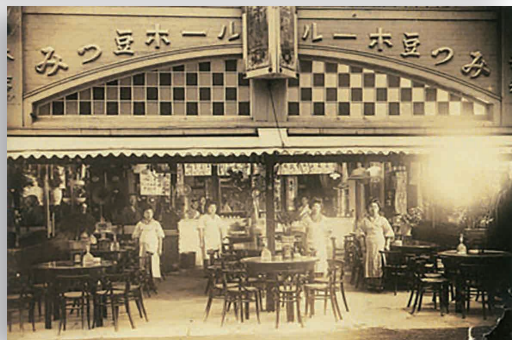
軽く見えない、軽い建材!!

アルデコとの出会いは、設計からの提案でした。建物に負担を掛けない軽さがいいですね。しかも軽く見えない。そして、製品がイメージのコンセプトに合っている。この建物のデザインは和風ですが、内装・外装共に黒御影石など黒を基調とせず、明るいイメージにしたかったのです。

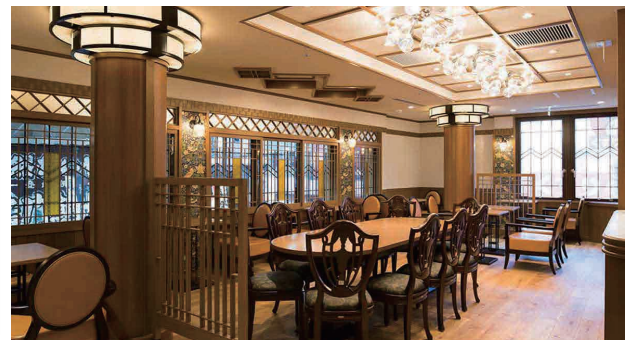
メーカーのデザインサービスによる3Dパースも良かったです。パースはリアルにイメージを伝えられるので直ぐに説得が出来ました。一般の方に図面だけで完成イメージを想像させるのは、スケール感が分からないので難しいです。



▲改修前の舟和本店



▲明治～大正時代の「みつ豆ホール」



▲リニューアルした喫茶室

現代風にした大正デコデザイン。 外装は景観条例と地域性を考慮

「創業時に戻す。創業時に近いデザインにしたい。」とうオーナー様の要望に当時の写真を何枚か借りて、その中からエッセンスをチョイスし、大正デコと言われるデザインにしました。オーナー様が新しい(現代的な)デザインに興味がなく、浅草に合ったデザインにしなければとの想いで創りました。ただし、古いだけではなく現代風にアレンジし、和風で大正モダンなデザイン、しかしきちりと和風とくくるのではなく、カテゴリーは曖昧にしてあります。

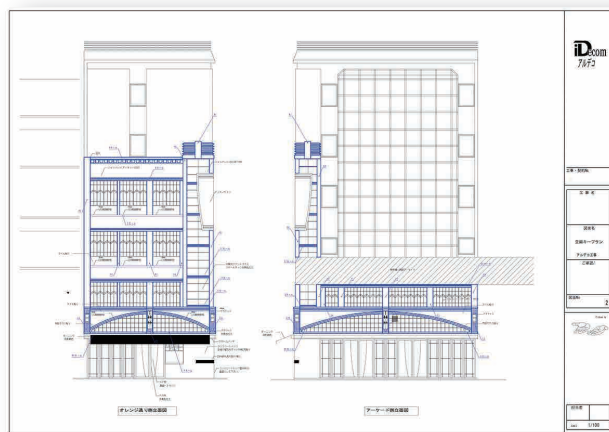
舟和本店がある地域は、浅草の中でも古い店が多く、舟和は中心的存在です。ここ、台東区には景観条例があり、外壁に使用できる色は色彩基準があり、基準色・強調・アクセント色の配分量と、それぞれの色の色相・明度・彩度が決まっています。昔の写真はモノクロで色までは判りませんが、デザインに合った色を条例に沿って決めました。さらに、デザインした際、入り口や看板に舟和の帆の形を意識的に入れました。これには、オーナー様も喜んでくれましたよ。

それから、昔の雰囲気を出すのに、外装にアルミではなく、スチールのサッシの使用を考えていました。近いものを探しましたが、防火上の問題等とコスト高で断念せざるを得ませんでした。

内装は、1階は売場、2-3階は飲食スペース、4階は多目的ホールになりました。内装も大正デコに合わせたデザインになっています。室内の改装で大きく変わったのが窓です。道路に面した窓からスカイツリーを見せたくて、2階から4階に窓を作りました。2階の喫茶部にはカウンター席を設け、そこから外が眺められるようにもしました。もともとこの場所にはトイレがあったのですが、奥へ移動しました。さらに、昔風のデザインから天井を高くしたかったのですが、1階は出来ました、2F以上は既存の天井の高さなどから難しかったです。

また、客を2階(喫茶部)へ誘導したく、動線の為にエレベーターの位置移動をしたかったのですが、これも出来なかったのが残念です。

2階へあがる階段は新しくしました。デザインに合わせたレトロな雰囲気の螺旋階段です。



▲アルデコ用装飾設計図面

建て直すより、現状を活かす方がいい

古いビルでも使えるのなら、建て替えず活かす方法を考えなければいけないですね。以前舟和本店近くに、老舗の店舗があり、建て替えを検討した話があります。しかし、現在の条例との兼ね合いが難しく、建て替え前と同等の店舗面積を確保できなくなり、結果は、店を閉めたという話があります。私の体験では、別の案件でホテルのリニューアルの仕事をしました、敷地面積ぎりぎりの外壁でクリアランスを取るのにいっぱいでした。

建て替える場合は、現在の規制上、今以上の大きさには作れません。耐震補強が可能なら、補強を行い既存のビルを活用する方が良いです。

制約の少ない建材「アルデコ」

アルデコを知ったのはインターネット検索です。こんな風な素材があるのは、何となく知っていました。しかし、実際には使ったことは無かったです。初めてアルデコを見た時は、「思ったより軽く建物に負荷が掛からない。気軽に使える。」と思いました。

建材は制約が多いですが、アルデコは制約なく使えました。イメージ通りに収まり、軽くて規制が少ないのが良く、取付方法もラクでいい。今後、地震等を考えると壁面に負荷がかかる重い物は付けられません。落ちたことを考えると、使うことを考えられないです。

今後は、ルーバー格子の様な、間に支持するものが無い形で使いたい。浮いた状態。それが出来ると、アルデコはさらに使い勝手が良くなると思います。

■ 株式会社 舟和本店 ■

本社 〒111-0043 東京都台東区駒形 1-9-5

TEL : 03-3842-2701

本店 〒111-0032 東京都台東区浅草 1-22-10

TEL : 03-3842-2781

URL <http://funawa.jp/>

直営店 本店売店, 本店喫茶, 雷門店, 仲見世1号店, 仲見世2号店, 仲見世3号店, ふなわかふえ浅草店, 浦和工場売店, 松屋浅草支店, 大丸東京店, TOKYOMe+, 西武池袋本店, 小田急百貨店新宿店, 東急百貨店東横店 東横のれん街, ふなわかふえ 高田馬場店, ふなわかふえ 自由が丘店, ルミネ1。その他全国に店舗多数

■ 株式会社 アリガ ■

所在地 〒169-0074 東京都新宿区北新宿 4-17-6

TEL : 03-3364-2571 FAX : 03-3363-8024

事業内容 洋菓子ケースの製造販売。冷凍・冷蔵設備の設計施工。商業施設の設計施工。商業施設の省エネ提案。アフターメンテナンス、他

■ ケーアンドイー 株式会社 ■

所在地 〒162-8557 東京都新宿区津久戸町 2-1

TEL : 03-3266-0573 FAX : 03-3266-7097

事業内容 建築及び設備リニューアル・リフォーム工事の企画、設計、施工及びそれらに関する技術開発。建築及び建築設備の建物調査・点検・診断。軽仮設資材のリース・販売。

景観条例とアルデコ

街の美観や景観を守り、その地域独自の特色を打ち出す為に、各地で様々な景観条例を設定しています。デザインの面から景観条例にアルデコ・インターデコムはどの様に対応できるのかをご紹介します。

ランドマークを中心に、統一感ある美しい街並みづくり

例えば、横浜市港北区にある大倉山駅の商店街「大倉山エルム通り街」には、街づくり協定があり、建物に対し景観条例を定めています。その一部を抜粋すると「2 統一デザインの採用 (1) 街の調和ある統一感を創造するため、建物のエルム通りに面する壁面は、プレヘレニズム様式(大倉山記念館の様式※1)に類似したデザインとする。(2) スカイラインの統一、及びファサードの連続性を強調するために、プレヘレニズム様式に基づいた梁型(エンタープラチャー)を用いる。(3) ファサードには円形又は半円形の断面を持つ柱を用いる。」と、あります。

この商店街では建物の様式を指定し、外壁の色だけではなく、建物の姿(外観)まで細かく決めています。

ここでの設計者は、用いられる「プレヘレニズム様式」を調べ、協定にそった建物をデザインすることになります。



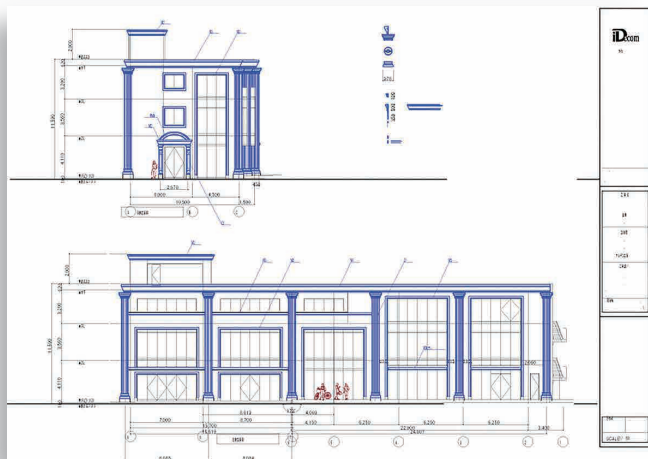
▲プレヘレニズム様式に統一された、大倉山エルム通り商店街

※1 大倉山記念館の設計者長野平治が名づけた「プレヘレニック様式」。ヘレニズムとはギリシア風の文化で、プレはその前身ということになり、プレヘレニック様式とは、ギリシア以前の建築様式になります。またはクレタ・ミケーネ様式とよばれている様式です。

様式を取り入れるのは容易ではありません。柱には様式ごとにプロポーション(柱の直径:礎盤:柱頭の比率)があり、デザインも違います。また、建物に対してサイズを間違えると、貧相に見えたり、寸胴に見えたりして、せっかくの円柱が活かされません。さらに、ただ柱等の装飾物を建物に付ければ良いわけではありません。美しい建物にするためには、装飾自体のデザインはもちろんのこと、建物とのバランス(量やサイズ)が大事です。様式を踏襲しながら、建物との調和が必要になります。その上で様式を取り入れなければなりません。



▲ギリシャ風装飾でのデザイン提案パース



▲アルデコ用装飾設計図面

様式を踏まえて、デザイン提案！ 数多くの実績事例が裏付け

「アルデコ」は歴史的様式を踏まえた、製品の形状デザインはもちろん、建物全体への装飾デザインまで出来ます。

ギリシャ様式風の建物をはじめとして、西洋建築デザインの建物装飾を数多くこなしており、装飾デザインには自信があります。▲上記のパースとアルデコ図面はデザイン提案の一例です。お客様からのデザインの相談や注文時に様式を指定されることも多く、建物のコンセプトに合わせたデザイン・提案をしています。装飾アドバイザーとして、デザインが定まっていないゼロの状態からでもご相談をお受けしています。また、金額(ボリューム)のご指示を頂ければ、その範囲内での提案も可能です。

実績経験から導き出される、装飾建材メーカーからのデザイン提案です。

町の景観の継承。 京町家の建築様式に対応できる

景観条例の中には、今ある町の景観を変えないことが目的の場合があります。近代的なデザインの建物を取り入れず、昔ながらの雰囲気と情緒を守る地域です。代表的な場所が京都です。京都は建築デザインに限っても景観のガイドラインが、かなり細かく設定されています。

例えば、清水寺周辺地域の景観ガイドラインの中でデザイン基準は「深い軒がつくる落ち着いた和風基調の町並み景観を保全。軒の連なりを継承することによる通り景観の保全。京町家等の歴史的な町並みとの連続性を維持。京町家等の建築様式の継承。」とあります。新たな建物は京町家風のデザインしか建てることができないということです。しかし、商業施設の場合、木造の建物では耐震性を考えると難しいのではないのでしょうか。

▼下の写真は、京都市東山区、清水寺そばにある結婚式場です。構造はRC造及び鉄骨造ですが、景観条例に沿ったデザインで、一見ではRC造に見えない和風の建物になっています。RC造の建物は装飾の少ない、無機質な建物になりがちですが、こちらの結婚式場は、外観で使用する装飾材に、木調塗装を施した「アルデコ」を使用しています。実際の木は、反ったり腐りやすくメンテナンスが大変です。それに比べて「アルデコ」は、反り腐りがなく、紫外線に強く耐久性に問題はありません。

形は単純な角材風の形状と木調塗装の「アルデコ」で格子の様にデザインしています。木製の格子と比べても全く遜色はありません。「アルデコ」が京町家風の建物の一端を担っています。



▲木造建物風のデザインの結婚式場



▲木調塗装のアルデコ



▲格子等がアルデコ

築90年のビルの改装。 レトロ感が残る石調塗装

▼下の写真は、築90年のビルの改装事例です。90年を経過したビルですが、耐震に問題はなく、外観を化粧し直し、リニューアルしたビルです。

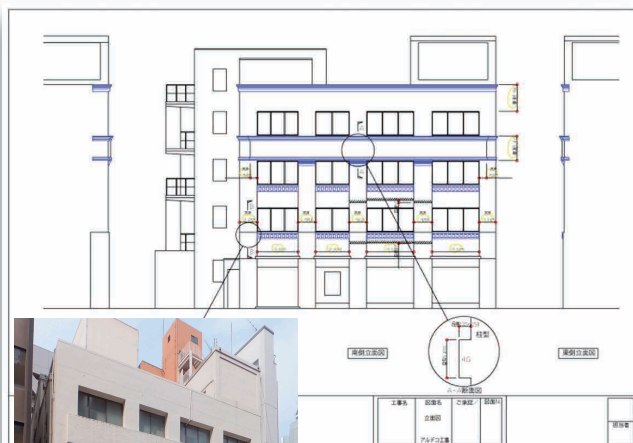
ここでの「アルデコ」は石調の塗装を施してあります。「アルデコ」は軽量なのが特徴ですが、石調の塗装を施すと、見た目に重量感が生まれます。前ページの舟和本店の改装でも石調の塗装を施しています。

「アルデコ」は変幻自在。市区町村の様々な景観条例に対して、装飾建材メーカーとして培った経験と実績からなる当社のデザイン力と製品自体がもつ特性、加工性の良いことから出来る自由な形状、さらに色・テクスチャーでいかようにも対応できます。

現代的なデザインはもちろん、レトロなデザイン、和風デザイン、西洋風デザインなど様々なタイプの建物に装うことが「アルデコ」なら可能となります。



▲築90年のビルの改装後



▲アルデコ用装飾設計図面



◀改装前

建物に負担を掛けない軽量さと、後付けできる、「アルデコ」の特性が活かされた改装事例です。

街中にあるモールディングをWatch!

モール形状から見える、汚れとの関係

街を歩いていると素敵な建物があります。しかし、建物はきれいでもモールが汚れて残念な印象になってる建物がたくさんあります。そこで、汚れやすいモールとはどのようなタイプなのか見てみましょう。

※下記の事例の全てがアルデコではありません。

水切りが汚れの明暗を分ける！！

モールディングは建物のアクセントとなり、建物を引き立てる役目を果たす存在です。しかし、時には雨だれ等の汚れによって、建物の印象を悪くする存在になることもあります。雨水には埃やちりが混ざっており、建物を汚す原因となります。

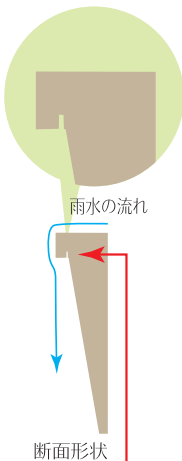
雨水の流れは、モールの汚れに大きく影響し、モールの

形状等によって汚れ方に差が出ます。特に、水が切れる仕様になっているか否かで、汚れ方は大きく変わります。

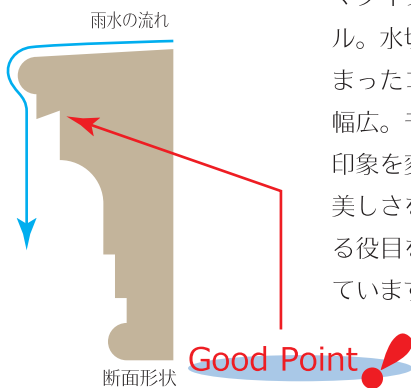
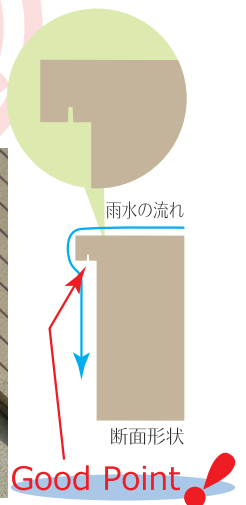
形状に影響を与えず、ほんの少しの工夫等でモールの美しい姿を保つことができます。モールの美しさは建物の外観美の保持に繋がります。

水が切れる仕組みがある！汚れにくいモール形状

▼形状はシンプルで、下部が薄くなっていく形状のモール。上部底に小さい水切りが入っています。細い上部で水が切れるため、面積の広い下部はきれいに保たれています。

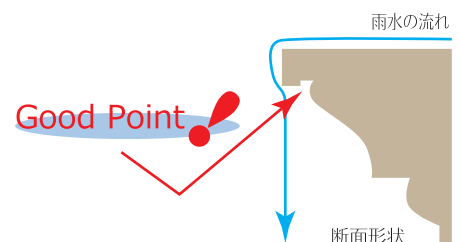


▼こちらも上部底面にある水切りが、水の流れを変える役目をしています。



▲トップ部分がアール状で、段差が多い優美な形状だが、アール形状は水切りが出来ず汚れやすいです。しかし、2段目で水切りを入れているために、雨水が2段目で切れ、モール全体を雨水が流れるのを防いでいます。

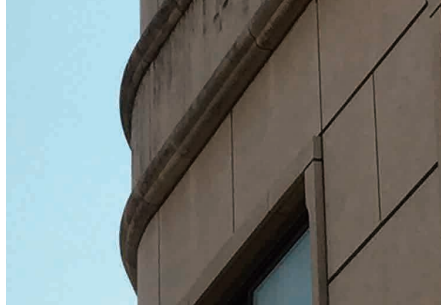
▶水切りがしっかりあり、形状も優美な反シーマタイプのモール。水切りは奥まったコの字で幅広。モールの印象を変えずに美しさを保持する役目を果たしています。



残念な汚れやすいモール形状

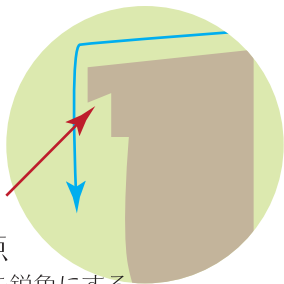
水が切れる仕組みが無く、ダイレクトに水が流れてしまう形状は、モール全体が汚れやすくなります。また、段差があり水が切れそうな形状でも、段差が低いと水は切れず、結果汚れます。

▼水が切れる仕組みがない形状



◀雨水が切れる場所がなく、ダイレクトに水がモールを流れるため、雨だれ跡がつき汚れやすい形状です。折角の装飾も、魅力が半減。歳月が流れるとともに、汚れはますますひどくなり、適宜洗浄等を行わないと、美観はますます損なわれます。

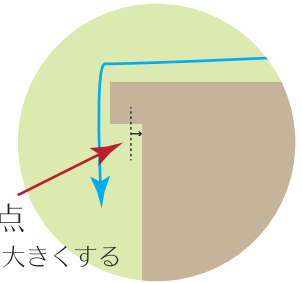
▼段差があるが低く、水切りが出来ていない形状



改良点
切込みを鋭角にする

▲上部形状は、それぞれ段差があり、一見水切りが出来そうな気がしますが、段差が低すぎて水切りの役目を果たしていません。

改良ポイントとして、一段目を大きく（高く）するか、厚みを変えたくない場合は、切込みを鋭角にすることによって改善できます。



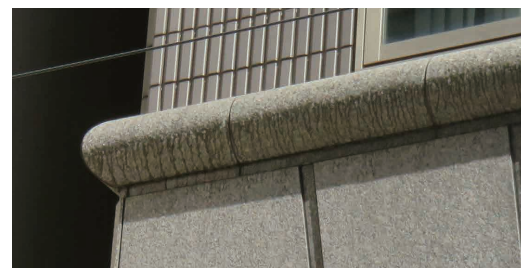
改良点
段差を大きくする

表面材質や色等の違いによる汚れ方の違い

曲面等、形状によって汚れやすいものは、素材や色の選定が大事。汚れが目立たないダーク系色や凹凸の少ない表面素材を選択すると、美観を保ちやすくなります。



◀同じビルの上下に施工されているモール。形状は同じだが、素材の違いで汚れに差が出ている例。



▲凹凸のある表面

▼ツルツルな表面



▲こちらも同じような形状のモール。表面の凹凸により汚れに差が出ています。

インターデコムでは、
建物の装飾についてのご相談を承ります。

☎0120-978-413

インターデコムはメーカーですが、製品を提供するだけではありません。

約 3,000 件の採用実績があり、建物装飾のプロとしてあなたの疑問にお応えいたします。

お気軽にご相談ください。



インターデコムの Service

- デザイン提案
- 3DCG パースによる完成イメージの具体化
- アルデコの取付施工
- アルデコプレゼンルームの提供 他



アルデコプレゼンルーム



ビル外観



近くにお越しの際は、是非お立ち寄りください。

販売代理店

■お問合せ先 編集・発行

株式会社 インターデコム

〒105-0013 東京都港区浜松町1-25-13 浜松町NHビル 7F TEL 03-6452-8901 / FAX 03-6452-8904

http://www.interdecom-co.com / E-mail ardeco-1@interdecom-co.com

iDecom®

「ARDECO NEWS 10号」2018年5月28日発行

※ 許可なく本誌の全部もしくは一部を引用または、複製、転写などにより使用することを禁じます。

©株式会社 インターデコム